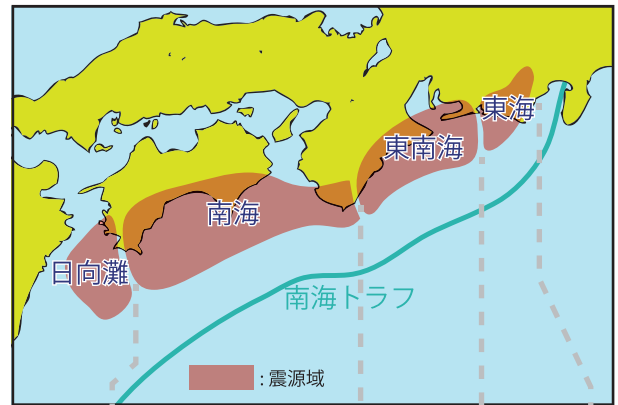
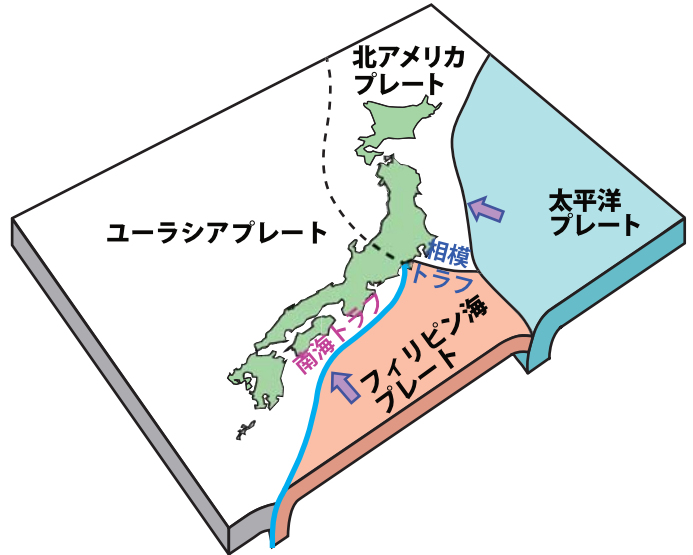


1. 南海トラフの地震

■ 南海トラフの地震とは

フィリピン海プレート（海側プレート）とユーラシアプレート（陸側プレート）の境界を「南海トラフ」と言い、南海トラフで発生する海溝型地震のうち四国沖から紀伊半島沖で発生するものを「南海地震」と呼んでいます。

海側プレートが陸側プレートに向かって、1年間に数 cm 程度の速さで沈み込むことでプレートにひずみが蓄積されていきます。たまった力が限界に達すると、陸側プレートが跳ね上がり、地震や津波を引き起こします。この仕組みで起こる南海トラフの地震は、歴史的に見て繰り返し発生しています。



■ 繰り返される南海トラフの地震

これまで南海トラフの地震は、90年から150年程度の周期で繰り返し、マグニチュード（M）8クラス以上の津波を伴う地震が発生しています。前回、昭和南海地震が1946年に発生しており、今世紀前半にも発生する可能性が高まっています。

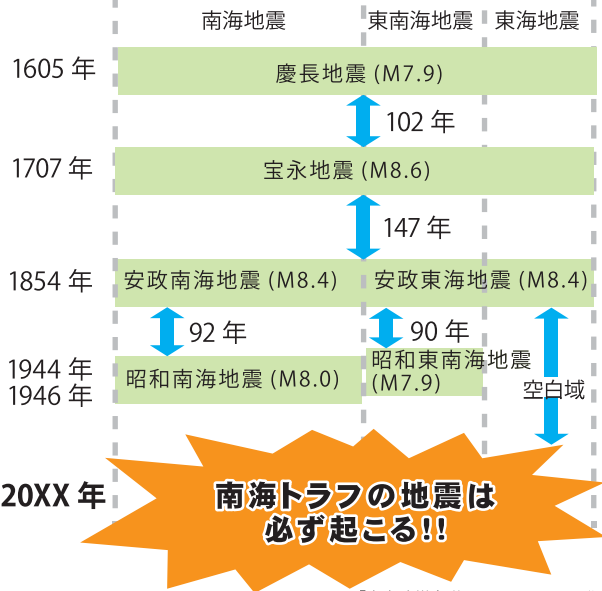


南海地震の津波被害 海陽町 昭和21年（1946年）



南海地震の津波で満徳寺へ避難した家族 牟岐町 昭和21年（1946年）

写真：徳島県立文書館 提供

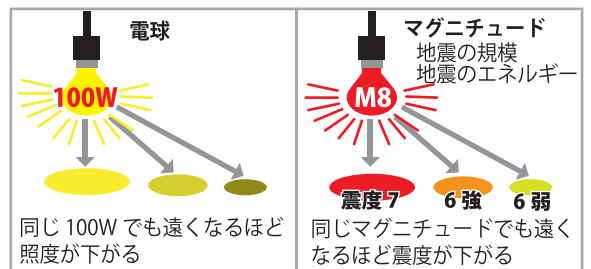


「中央防災会議 H23.12.27」より作成

マグニチュードと震度

- ◆マグニチュード：地震が発するエネルギーの大きさ
- ◆震度：地面の揺れの強さ（同じ地震でも場所によって震度は異なる）

マグニチュードと震度の関係は、電球と明るさの関係に例えられることがあります。電球そのものの明るさを表すのがマグニチュード、震度は周りの明るさで表現します。同じ電球の光でも、電球からの距離によって明るさは変わります。このようにマグニチュードの値が同じであっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。



地震・津波

防災マップ

避難

被害

備え

避難場所